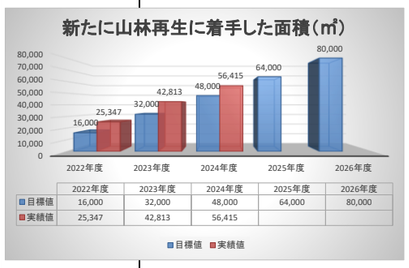
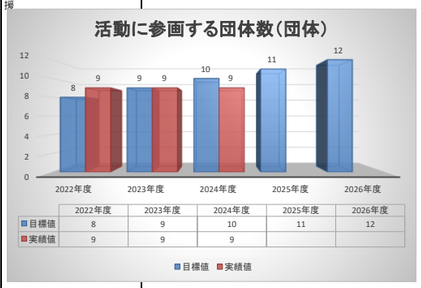
町田市里山環境活用保全計画
重点事業進捗状況確認シート
（2025年2月現在）

資料　4－1

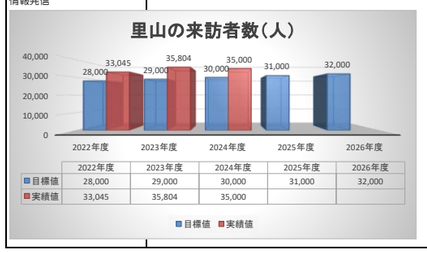
重点事業名	指標	取組	2023年度 実施内容	2023年度 評価	2023年度 今後の予定	2024年度 実施内容	2024年度 評価	2024年度 今後の予定	備考
山林と農地の再生と活用	新たに山林再生に着手した面積	①山林と農地の再生に取り組みます	（1）山林や竹林の再生・整備 ・小野路エリアにおいて、既存の団体と未活用の市有山林約17,000㎡の活用について協議し、山林の活用を図りました。（累計42,000㎡） ・相原エリアの人工林（約62,000㎡）の間伐を実施しました。2021年度から2023年度までの3年間で合計（約212,000㎡）、全体の30%以上の間伐を実施し、事業を終了しました。 ・小野路・小山田エリアの市有地におけるナラ枯れ被害の対応について、2023年度から概ね3年間で枯損木の伐採を行う計画を立て、2023年度は小野路エリアの奈良ばい谷戸の伐採を実施しました。	◎	（1）山林や竹林の再生・整備 ・引き続き、既存の団体等に未活用山林の活用の働きかけを行います。 ・引き続き、ナラ枯れ対策の伐採を実施します。2024年度は鶴見川源流保水の森の調査及び枯損木の伐採を行う予定です。	（1）山林や竹林の再生・整備 ・市民団体や法人などにより山林や竹林の管理・保全が行われました。 ・小山田エリアの未利用の市有山林約13,000㎡について、新たな市民団体と活用に関する協定を締結し、団体による整備活動がはじまりました。 ・相原エリアにおいて、山林を所有する一般財団法人が境川源流周辺のハイキングコースを整備しました。 ・里山で活動するNPO法人と連携して、鶴見川源流保水の森のナラ枯れの状況調査を実施し、散策や活動に支障がある枯損木を伐採しました。	◎	（1）山林や竹林の再生・整備 ・未利用山林の活用につながるよう、団体等への働きかけを行います。 ・引き続き、ナラ枯れ対策の伐採を実施します。2025年度は小野路町（馬場・富士ノ沢 ほか）の調査及び枯損木の伐採を行う予定です。	
			（2）農地の再生・整備 ・小野路エリアの未利用農地約700㎡を整備しました。同地の農地約3,000㎡の整備を完了し、農業従事者に斡旋しました。		（2）農地の再生・整備 未利用農地の整備にあたっては、町田市農業研修農場における研修修了生の就農用農地としての活用を図るなど、計画的に実施します。	（2）農地の再生・整備 ・小山田エリアの市有農地の活用について、同地に隣接する農業従事者と協議しました。		（2）農地の再生・整備 ・市有農地の活用に向け農業従事者と引き続きと協議します。	
			（3）自治体間の連携による里山環境の再生や活用 ・都内の自治体が連携して都内における森林整備やカーボンオフセット、現場体験、木材利活用などの事業に取り組む「多摩の森」活性化プロジェクト推進協議会（2023年7月発足）への2024年度からの参加に向けて、東京都及び参加自治体と協議を行いました。		（3）自治体間の連携による里山環境の再生や活用 ・2024年度から協議会に参加します。協議会自治体（山間部自治体）や事業者と連携し、山林の再生や資源の活用に取組みます。	（3）多様な主体との連携による里山環境の再生 ・都内の自治体が連携し、都内における森林整備やカーボンオフセット、現場体験、木材利活用などに取り組む「多摩の森活性化プロジェクト推進協議会」に2024年度から参加しました。 ・学校法人玉川学園と連携し、放置竹林に関する課題を周知し、課題の解決を図ることを目的としたイルミネーション企画「竹あかりが息づく気づきの丘」を実施しました。		（3）多様な主体との連携による里山環境の再生 ・協議会に参加する山間部の自治体や事業者と連携し、山林の再生や資源の活用に取組みます。 ・本企画をスタートアップに、同法人と連携して放置竹林などの課題解決に取組みます。	
		②事業者等と連携して里山の環境・資源を活用します	（1）里山資源の活用に必要なインフラ整備 ・小山田エリアの作業路整備について、隣接する地権者に複数のルート案を示して協議を行い、整備の方向性を決定しました。		（1）里山資源の活用に必要なインフラ整備 ・引き続き、作業路整備に向けて隣接地権者と協議のうえ測量を実施し、道路の線形を確定します。	（1）里山資源の活用に必要なインフラ整備 ・小山田エリアの作業路整備について、道路の線形を確定し、整備に影響する樹木の調査および測量を実施しました。		（1）里山資源の活用に必要なインフラ整備 ・作業路整備に向けた設計を実施します。	
			（2）多様な主体との連携・協働による里山環境（資源）の活用 ・商工会議所や市内事業者と連携し、放置竹林の課題解決につながる取組として、幼竹を活用したメンマづくりを試行し、市内産メンマの事業化について意見交換を行いました。 ・三輪エリアの学校法人及び相原エリアの一般財団法人が所有する山林の活用について、木材事業者も交え意見交換を実施しました。 ・「多摩の森」活性化プロジェクト推進協議会への2024年度からの参加に向け、東京都及び参加自治体と協議を行いました。（再掲）		（2）多様な主体との連携・協働による里山環境（資源）の活用 ・木材や竹材などの里山資源の活用について、事業者との意見交換により判明した課題の解決に向け、引き続き関連事業者との意見交換を実施するなど情報収集に努めます。 ・2024年度から協議会に参加します。協議会参加自治体（都市部自治体）に、里山環境の活用について働きかけを行います。	（2）多様な主体との連携・協働による里山資源の活用 ・町田青年会議所と協働し、「まちだSDGsアワード2024～里山を活用した循環型ローカルSDGsの構築～」を開催しました。里山資源の重要性や地域団体などと連携・協働して里山の活用に取組む必要性を広く周知するとともに、里山を活性化させるアイディアを募集しました。 ・小野路エリアで活動する市民団体が加工した市内産メンマを、市職員を対象に販売しました。あわせて、購入者に対しメンマおよび竹の活用に関するアンケート調査を実施しました。 ・市有山林の維持保全により発生した伐採木を、椎茸栽培の原木として利用する取組の推進について、町田市農業協同組合椎茸部会と協定を締結しました。 ・「多摩の森活性化プロジェクト推進協議会」の枠組みを活用し、協議会に参加する都市部自治体の住民を対象とした現場体験事業の実施に向け、東京都および市民団体、施設管理者と協議しました。 ・学校法人玉川学園と連携し、放置竹林に関する課題を周知し、課題の解決を図ることを目的としたイルミネーション企画「竹あかりが息づく気づきの丘」を実施しました。（再掲）		（2）多様な主体との連携・協働による里山資源の活用 ・里山を活性化させるアイディアやイベント展示での聞き取り、メンマ販売でのアンケート調査を参考に、里山資源の活用について、情報収集や調査研究を行うとともに、情報の発信など普及・啓発に取り組みます。 ・伐採木の椎茸栽培への活用について、町田市農業協同組合と連携し取組を推進します。 ・2025年度に「多摩の森活性化プロジェクト推進協議会」の枠組みを活用した現場体験事業を、相原エリアの指定管理者、小野路エリアの市民団体と協働して実施します。 ・学校法人との連携を継続し竹材や木材の利用推進に取り組みます。	
		③里山で活動したい人を受け入れる環境を整備します	（1）参画しやすい環境の整備 ・小山田エリアに整備する拠点施設について、里山環境の再生と活用の拠点となり、里山に関わる人を増やす施設として整備する方向性を定めました。		（1）参画しやすい環境の整備 ・拠点施設の整備に向けて、基本構想で整理した課題を解決するため、事業者へのマーケットサウンディング調査を実施します。	（1）参画しやすい環境の整備 ・拠点施設の機能や里山環境の活用に関連する事業者を対象にマーケットサウンディング調査を実施し、事業者参画につながる提案を受け付けました。		（1）参画しやすい環境の整備 ・事業者からの提案を精査し事業者が参画しやすい環境を整えます。	
活動に参画する団体や企業・個人など、担い手の確保と支援	活動に参画する団体数（累計）	新たに活動を行う団体等への助言や支援を行います	（1）新たな担い手の確保に向けた取組 ・プラットフォームとなる官民連携体制「まちだみどり活用ネットワーク」を構築しました。実行委員会を立ち上げ、7月に公園でみどりを身近に感じられるイベント、11月に農園で生きものに関するワークショップを、様々な担い手の連携により実施しました。 ・地域の団体や法人、施設管理者などにおいて、里山資源を活用したワークショップや自然環境を学ぶ勉強会など、里山への興味関心を促す取組を実施しました。	○	（1）新たな担い手の確保に向けた取組 ・活動する団体などの取組が新たな担い手の確保につながるよう、必要な支援を行います。 ・引き続き「まちだみどり活用ネットワーク」により、持続的にみどりを活用する取組を検討し実施します。取組やホームページ・SNS等を通じて周知を図り、新たな担い手の参加や連携を促進します。	（1）新たな担い手の確保に向けた取組 ・市庁舎1階イベントフロアにおいて、小山田・小野路エリアで竹林整備に取り組む市民団体の活動を周知しました。 ・「まちだみどり活用ネットワーク」において、様々な担い手が連携して、4月に「春の里山体験ファミリーワークショップ」、7月に「ずしまちいち＆蓮まつり」、10月に「ハナハチ＆野草里山ワークショップ」を実施しました。また、「まちだのみどりを活かし、みどりと暮らす」をテーマにシンポジウムを開催し、基調講演と関連する団体の代表者によるトークセッションを実施しました。	△	（1）新たな担い手の確保に向けた取組 ・活動する団体などの取組が新たな担い手の確保につながるよう、必要な支援を行います。 ・引き続き「まちだみどり活用ネットワーク」により、持続的にみどりを活用する取組を検討し実施します。取組やホームページ・SNS等を通じて周知を図り、新たな担い手の参加や連携を促進します。	
			（2）地域・団体・企業等と連携した取組 ・小山田エリアにおいて、地域団体や地域の事業所などと協働し、12月に里山体験イベントと清掃活動を実施しました。 ・小野路エリアにおいて、町内会や公共施設の指定管理者と協働し、1月に里山の散策と清掃活動を実施しました。 ・三輪エリアにおいて、鶴川地区協議会と連携し、地域のみどり（里山）を知り、活動への参画につなげることを目的とした「鶴川里山勉強会」を実施しました。		（2）地域・団体・企業等と連携した取組 ・引き続き、地域や団体、企業などと連携した取組を実施します。	（2）地域・団体・企業等と連携した取組 ・小野路エリアにおいて、12月に町内会と協働して里山の散策と清掃活動を実施しました。 ・小山田エリアにおいて、10月に新たな市民団体と市有山林の活用について協定を締結し12月から活動をはじめました。（再掲）		（2）地域・団体・企業等と連携した取組 ・引き続き、地域や団体、企業などと連携した取組を実施します。	
			（3）企業版ふるさと納税の事業エントリー ・企業版ふるさと納税について、寄付の使い道を「里山環境の保全を行う団体の活動の支援」と具体的に示し、寄付しやすい環境を整えました。		（3）企業版ふるさと納税の事業エントリー ・企業版ふるさと納税の制度を通じて、まちだの里山の取り組みをPRします。	（3）企業版ふるさと納税の事業エントリー ・企業版ふるさと納税について、寄付の使い道を「里山環境の保全を行う団体の活動の支援」と具体的に示し、寄付しやすい環境を整え、事業者から寄附をうけることができました。		（3）企業版ふるさと納税の事業エントリー ・企業版ふるさと納税の制度を通じて、まちだの里山の取り組みをPRします。	
「まちだの里山」の戦略的な情報発信	まちだの里山の来訪者数（※）	企業等へ情報を発信し、活動の参画を促進します	・複数のメディアに小野路エリアで活動する団体が実施する放置竹林に対する取組（メンマづくりワークショップなど）が取り上げられ、多くの方に関心をもってもらうことができました。 ・「まちだの里山」をメインニュースとした広報を発行し、様々な世代へ里山の魅力や価値を伝えることができました。 ・企業を対象としたふるさと納税の事業に「里山環境の活用と保全」を位置づけパンフレットを作成しました。 ・2022年度に引き続き、既存の活動団体と協働し、SNSにて小野路エリアの里山で行うイベント参加者募集など活動を発信し、参画を促しました。	◎	・引き続き、まちだの里山での活動の様子や里山の魅力を発信し、里山での活動の参画につなげます。 ・企業版ふるさと納税の制度を通じて、まちだの里山の取り組みをPRします。	・地域の団体や法人、施設管理者などにおいて、里山資源を活用したワークショップや自然環境を学ぶ勉強会など、里山への興味関心を促す取組を実施しました。 ・市庁舎1階イベントフロアにおいて、庁内における伐採木の活用に取り組む「まちだの木活用プロジェクト」と、小山田・小野路エリアで竹林整備に取り組む市民団体の活動を周知しました。（再掲） ・町田青年会議所と協働し、「まちだSDGsアワード2024～里山を活用した循環型ローカルSDGsの構築～」を開催しました。里山資源の重要性や地域団体などと連携・協働して里山の活用に取組む必要性を広く周知することができました。（再掲） ・複数のメディアで「まちだの里山」や里山で活動する団体の取組が紹介されるなど、市内外に発信することができました。 ・引き続き、既存の活動団体と協働し、SNSにて小野路エリアの里山で行うイベント参加者募集など活動を発信し、参画を促しました。	◎	・庁内外の連携による様々な取組を市や連携相手の広報ツールを通じ、積極的に発信します。 ・引き続き、まちだの里山での活動の様子や里山の魅力を発信し、里山での活動の参画につなげます。 ・企業版ふるさと納税の制度を通じて、まちだの里山の取り組みをPRします。	※　まちだの里山の来訪者数 交流回遊拠点施設（小野路宿里山交流館）の来館者数と里山環境の保全活用団体が実施するイベント等の参加者数の合計 ※2024年度の成果（見込）について ・里山交流館の12月末の来館者数 　23，703人 ・1月から3月の来館者（見込） 　2，000人×3か月＝6，000人強 ・2024年度来館見込み 　30，000人 イベント等の参加者数 ・2024年度参加者（見込） 　5，000人 2024年度の里山の来訪者数（見込） 　35，000人



	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
目標値	16,000	32,000	48,000	64,000	80,000
実績値	25,347	42,813	56,415		



	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
目標値	8	9	10	11	12
実績値	9	9	9		



	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
目標値	28,000	29,000	30,000	31,000	32,000
実績値	33,045	35,804	35,000		